

『地域で声掛けを』

災害想定防災訓練

日高学区市民自治会の自主防災訓練が6月24日、日高交流センター体育館で実施されました。

日立地方に大型地震が発生したことを想定して、市民自治会自主防災組織の機能訓練、避難行動要支援者



防災士による災害減災ビデオの説明

安否確認訓練、避難困難者の避難支援訓練、支部役員による危険箇所報告訓練などのほか、AED操作講習、茨城トヨタ(株)日立北店の協力による災害時対応の車両の展示もありました。

日立市防災課、日高支所、北部消防署、第5消防分団、日高交番、日高小学校からの参加もあり、総勢200人以上参加した訓練でした。

会場では、市民自治会の3名の防災士(松原洋一、志賀隆良、瀬和直己)が紹介され、災害減災についての説明がなされました。

また、支部からは支部長自治委員が参加し、地域の危険箇所について、約30件の報告がありました。



救護・給水・避難支援

要支援者が生活しています。訓練では2名の避難支援を行いました。

訓練の終わりにはそれぞれの防災班が報告を行い、期待されたとおりの訓練ができたことを確認しました。

日立市防災課から「地域で声を掛け合い、互いに助け合うことが災害時には大切だ」と講評がありました。参加者には、災害時を想定した炊き出しによる大鍋で煮込んだ豚汁、醤油だしのおにぎりが配られました。

文化協会体験教室 開催される

去る6月25日の午後、日高交流センター2階の会議室で日高文化協会主催の体験教室が開催されました。この日は、お琴、色鉛筆の絵画、切り絵の3つの体験講座が2つの会議室で催され、30名ほどの参加者がそれぞれ興味を持つ講座に分かれて、講師の皆さんから



先生が手をとってやさしく演奏

指導を受けていました。この教室を主催した日高文化



お手本をもとに色鉛筆絵画

協会会長の、小澤邦子さんによると、今回の教室は昨年



切り絵の手順はこうです

この体験をきっかけに日高学区の皆さんが美術や芸術に親しむようになって欲しいという願いから始めたそうです。

お琴と色鉛筆の絵画の会場内では、お手本に渡された絵を見ながら集中して作品作成に取り組み子供や持ち込まれた4竿のお琴の音色、そして参加者の皆さんの話し声が和気あいあいと響いていました。

小さな輪 大きな輪

木ぎの会



わきあいあいと活動しているメンバー

鎌倉彫りは、器やお盆、文箱など木に彫刻刀で草花などを彫って漆を塗った日本の伝統技術です。木ぎの会は平成6年に日高公民館時代の「うるおい講座」をきっかけに立ち上がった団体で、月1回横浜から講師の金井伸子さんを迎えて6名で活動しています。制作したいものを選び、図案を考え、彫り、最後に漆を塗りますが、皆さん図案を考えたり、彫る時間が何より楽しいと言います。先生に彫り方を教えてもらい、いかに生き生きと草花を彫れるかに集中して(仲間とおしやりでも欠かせませんが)いる姿がとても楽しそうでした。彫る以外でも旅行なども楽しんでるそうです。会員募集中との事ですので、興味のある方は一度見学してみても如何でしょうか? 活動日は毎月第二水曜日10時~16時日高交流センターにて。代表・小澤邦子さん (菊池理可子)

「おはよう」 元気に挨拶

日高小中あいさつ運動 登校する日高小、中学生と朝の挨拶を交わす「あいさつ運動」を中学校が6月8日、小学校が6月15日、いずれも学校の校門において「おはよう」「おはようございます」と元気に挨拶を行いました。

日高小のPTA役員・児童、日高中の生徒代表・先生方と共に、日高学区市民自治会からも本部役員十数名があいさつ運動の旗を持参して参加しました。小学生のあどけなさの残る屈託のない挨拶が多いのに対し、中学生は少し恥ずかしさを交えた大人びた挨拶が印象的でした。

いづれにしても日高学区の小中学生の皆さんが他人の気持ちを理解する優しい大人に成長していつてほしい、未来を担う若者に育ってほしいと思いました。勉強に、運動に「頑張れよ」とエールを送ったひと時でした。



今日も元気に「おはようございまーす」